

北海道札幌

中島公園

八田三郎殿

宛

100/A  
10.2



ノ

東高田原

佐木 久 名 弱 雄



ちよとくしん 志士多し 七程

上ふふあへ 野田の志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

志士 志士 志士 志士 志士 志士

聖人おとちお色うは 何れの世に  
社子 優劣の人おとめなく  
抑得 が眼目しむる 十の世の  
明幼し大しく 一般の心むす  
可しむるにすよ 由心大に成り  
30の今日向後も 大足の手を執  
し <sup>先形</sup> 重なりは 御おれの人  
と今今し 交ちか <sup>が</sup> 別れを  
又せり大増を し 成るおお  
おとま 年りしん ト申すよ 朝日  
の優あなを 記者連ちてに 地  
考する、之と 採印せぬと 言の  
一 五ふしりしん 了りし 行を  
と討馳し、 彼小 然は 厚を  
之有せぬあを かもる、 フコ加共し  
はでと 興を 計 直の 根を せり  
所し 且 答ふ 一 件よ じ 十 進  
中ら 平坂の色を 赤し 文 徒  
た 十 口 じ じ じ 却へ 傲得の  
徳 向と 赤し じ じ 事 方 じ 院 じ じ



44 山彦の一件は、  
中ふ、安根の色を、  
さす口と、  
無むと、  
い、  
ち、  
欠、  
ふ、  
の、  
全、  
さ、  
シ、  
系、  
十、  
は、  
此、  
こ、  
一、  
と、  
注、  
今、





林に詔—のりふふ—こせとわぬ

少少に事うと後銀のえぬを以て

此後すすむるやむ

家<sup>に</sup>に<sup>の</sup>内<sup>の</sup>えの物<sup>に</sup>今<sup>に</sup>し<sup>つ</sup>を<sup>配</sup>

悉有<sup>之</sup>ら<sup>ぬ</sup>を<sup>少</sup>し<sup>に</sup>反

に<sup>の</sup>夏<sup>と</sup>悉<sup>く</sup>を<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>ぬ

少<sup>に</sup>に<sup>ほ</sup>え<sup>い</sup>ひ<sup>ぬ</sup>は<sup>言</sup>す<sup>子</sup>

果<sup>に</sup>た<sup>に</sup>衝<sup>実</sup>す<sup>る</sup>ま<sup>な</sup>し

又<sup>人</sup>を<sup>引</sup>き<sup>に</sup>ひ<sup>て</sup>え<sup>ん</sup>を<sup>無</sup>

す<sup>る</sup>ま<sup>な</sup>し<sup>し</sup>に<sup>保</sup>し<sup>十</sup>ふ<sup>に</sup>

内<sup>西</sup>を<sup>終</sup>家<sup>す</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ぶ</sup>は<sup>乾</sup>

え<sup>に</sup>お<sup>取</sup>り<sup>や</sup>り<sup>也</sup>、<sup>突</sup>少<sup>を</sup>本

位<sup>を</sup>す<sup>ま</sup>ば<sup>人</sup>の<sup>言</sup>も<sup>言</sup>を<sup>言</sup>は

す<sup>る</sup>ま<sup>な</sup>し<sup>し</sup>の<sup>規</sup>出<sup>會</sup>に<sup>ま</sup>

一 賜本<sup>ザツクハラシ</sup>の<sup>修</sup>り<sup>に</sup>想<sup>す</sup>

之<sup>に</sup>向<sup>ま</sup>む<sup>を</sup>て<sup>是</sup>

方<sup>に</sup>位<sup>を</sup>え<sup>し</sup>、<sup>女</sup>の<sup>位</sup>を<sup>言</sup>

命<sup>す</sup>す<sup>る</sup>に<sup>成</sup>少<sup>と</sup>成<sup>せ</sup>し<sup>ま</sup>り

以<sup>て</sup>女<sup>を</sup>、<sup>小</sup>を<sup>い</sup>ひ<sup>て</sup>解<sup>本</sup>と

名<sup>を</sup>を<sup>場</sup>に<sup>さ</sup>す<sup>る</sup>に<sup>時</sup>き<sup>よ</sup>

之<sup>を</sup>許<sup>す</sup>る<sup>に</sup>さ<sup>ら</sup>に<sup>し</sup>て

さ<sup>ら</sup>に<sup>し</sup>て<sup>の</sup>解<sup>本</sup>と

前... 此... 為... 小... 之... 貴... 此... 所... 又... 合... 之... 本... 村... 随... 斯... 此... 之...



随分の内なる有るは、

斯く人を推薦し、

此の自ら推薦し、

之、おに其、標準を

と見る、

ヨリ、

保し、

富岡、

は、

者の、

三者、

つ、

く、

の、

の、

の、

の、

の、

の、

の、

の、

の、

の、

十一月、

新、

のり大ゲサに井のこはせい

お聞かせ願ひ申上

たま士松のちたはせまふす

の南隣ちよれ夫財一、勝来も

おまの苦心境情のり也、伊賀

おへ回帰舞しく、乃は全額に輪

をーののり要もせし、友行

十一月：十三日、新より家干

もが、ら、立、た、ま、ふ、十、分

の、法、一、中、上、ま、は、原、本、子

く、ま、ま、し、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、

も、奮、せ、す、の、り、ま、ま、は、の、り、ま、ま、